
修了生通信

あしはら

2024年3月

部落解放・人権大学講座
2023年度 修了生通信

修了生の実践とアップデートを期待して

部落解放・人権研究所 代表理事
谷川雅彦

第119期部落解放・人権大学の修了生の皆様。このたび、部落解放・人権大学講座を修了されたことを、こころよりお祝い申し上げます。皆様はこの半年間にわたる講座で、部落問題をはじめとする人権問題について、多角的に学び、深く考え、そして議論してきたと思います。その学びを企業や行政の人権担当者として職場で、そしてお住まいの地域で実践していくことが期待されています。

差別をなくするということは、マジョリティの意識や行動が変わるということです。マジョリティの意識や行動が変わるためには、差別被害の現実が可視化され、そして社会問題として認識され、問題解決に取り組まれる必要があります。差別被害が可視化されるためには差別の被害者が声をあげることが重要であり、そのための環境が保障される必要があります。

私たちの社会はマジョリティにとって便利なようにつくられています。ゆえに差別の被害はマジョリティにとっては認識しづらいものとなっています。職場や地域において講座の学びを実践するにあたって、ぜひこのことを覚えておいてほしいと思います。マイノリティの問題を知らなかったり、学ばなかったりすることは差別の加害を許し、加担しているということです。

もう一つは、人権は日々進化しており、私たちの人権意識も絶えずアップデートすることが求められているということです。部落解放・人権大学での学びはすべてではなく、永遠ではな

いということです。人権意識のアップデートは簡単ではありません。アップデートを自己努力に求めているはきっと進化する人権に置いて行かれてしまうでしょう。

本年は部落解放・人権大学講座の前身であります部落解放大学講座が開講して50年という節目の年にあたります。開講以来、2023年度末までに約400団体、5,780人の人権リーダーを育成してまいりました。これらの人権人材は企業や行政の現場において差別のない人権が尊重される社会づくりに大いに貢献いただけてきています。半世紀にわたる歴史と伝統を継承し、人権をめぐる社会情勢の変化に対応できるよう、部落解放・人権大学講座のさらなる改革発展をめざしてまいりたいと決意しています。

最後になりましたが、講座の運営に一方ならぬご尽力をいただきました大阪府、大阪府教育庁、大阪府教育委員会、大阪府市長会、大阪府町村長会、大阪同和・人権問題企業連絡会、大阪企業人権協議会、大阪府人権教育研究協議会、大阪市人権教育研究協議会、大阪府立学校人権教育研究会、大阪私立学校人権教育研究会、大阪府専修学校各種学校連合会、(一財)大阪府人権協会、『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議、同和問題にとりくむ大阪宗教者連絡会議、部落解放同盟大阪府連合会の皆様、そして自己啓発学習において助言者を務めていただきました皆様に深く感謝を申し上げます。

2023年度の解放大学（119期）プログラム

今年も対面とオンラインを併用した講座に

2023年度の部落解放・人権大学講座は2022年度に続き対面とオンラインの併用での講座、現地でのフィールドワーク、班を中心とした自己啓発学習などのプログラム構成で実施しました。（次ページにプログラム）

年末および年度末の時期を極力避け、7月14日から翌年1月25日までの約7ヵ月、全24日間のプログラムを週1回ペースで進めました。今年度も前半の一部のオンライン講義を「人権啓発東京講座」（全12日間）との合同プログラムとして実施しました。

開講初日のオリエンテーションでは、班のメンバーとの交流を通じて、共に学ぶ仲間としての意識を高められるよう心がけました。

その後、「マジョリティ特権を考える」の講義からスタート。6日目までは部落問題（歴史や現状）を軸に、7日目からは多様な差別・人権問題に関する講義へと広げました。今年度から、1コマの講義は講演60分～休憩10分～講演60分～グループ討議20分～質疑応答30分の計180分で構成した結果、受講生の活発な議論や質問が見られ、充実した講義になりました。オンラインではすべてZ o o mを活用して行いました。

フィールドワークは全て現地に行きました。8月の堺での部落問題学習から、9月は在日コリアンの歴史と文化、コリアタウンの姿を学ぶ生野コースと、野宿労働者のおかれている現状を学ぶ西成コースに分かれて行い、10月には住吉コースと高槻富田コースに分かれ、部落差別の現実と差別に負けない人権のまちづくりと隣保館の役割などを学びました。

今年度は「被差別当事者から学ぶ」をテーマにした講演も対面で行いました。被差別部落、障害者、ハンセン病回復者の家族の3つのテーマの当事者から被差別体験やその時の感情など

を聴き、受講生が自身の体験をふりかえる機会とし、その後の自己啓発学習につなげました。



上：グループワークの様子

右：住吉でのフィールドワーク

「私の水平社宣言」に取り組んだ自己啓発学習

自己啓発学習は11月下旬からの4日間、班ごとに7～8人の受講生が2人の助言者のサポートのもと取り組みました。初日はこれまでの講座受講を共にふりかえり、修了課題となる「私の水平社宣言」の執筆テーマを設定しました。

2日目以降は一人ひとりが自分の宣言について、背景を含めて文章化して発表。班員・助言者と意見やアドバイスを交わしながら完成をめざしました。これまで身近に感じた人権問題や無関心でいた問題に気づき、これからの目標を「宣言」に込めていただきました。ご自身の生い立ちや仕事に関する事など、多様な内容、テーマで執筆いただきました。

2024年1月25日の「修了の日」には、各班を代表してお一人ずつ「私の水平社宣言」を全体の場で発表いただきました。約半年にわたる講座の最後に、119期の受講生全体ですべての班からの発表を共有した時、解放大学が大切にしている「共に学ぶ仲間」を実感できた気がします。

所属先の職場での本来業務と並行しての解放大学の受講は大きな負担であったことと思いません。お一人は退職のため残念ながら未修了となりましたが、62名の受講生が第119期解放大

学講座を修了されたことを事務局としてうれしく思います。出会った仲間と共に、解放大学で学んだことを今後益々発展させていただくことを期待しています。(講座事務局 小西)

2023年度 第119期 部落解放・人権大学講座 プログラム・日程

回	グループ1	グループ2	実施方法	午前の部 (9:30~12:30)	午後の部 (13:30~16:30)
				午前・午後の各1コマの基本的な構成 < 講演60分・休憩10分・講演60分・討議20分・質疑30分 >	
1	7月14日(金)		対面	【開講式】【開講オリエンテーション】	【マジョリティ特権を考える】 出口真紀子さん
2	7月20日(木)		オンライン	【部落問題のいま】 川口泰司さん	【差別戒名からみた部落問題】 高橋典男さん
3	7月28日(金)		オンライン	【部落問題入門】 奥田 均さん	【差別をなくす社会システムのあり方】 北口末広さん
4	8月3日(木)		オンライン	【部落問題の歴史(前近代)】 矢野治世美さん	【部落問題の歴史(近現代)】 友永健三さん
5	8月10日(木)		対面	【日常の中の差別—マイクロアグレッション】 丸一俊介さん	【メディアと人権】 下村健一さん
6	8月30日(水)	8月31日(木)	FW①	【人権・同和教育から学ぶこと】 土田光子さん	【フィールドワークⅠ 部落問題学習】(堺市)
7	9月7日(木)		オンライン	【司法と人権】 大川一夫さん	【沖縄をめぐる人権問題】 金城リンダさん
8	9月13日(水)		オンライン	【障害者差別解消法の改正を見据え、 誰も取り残さない社会へ】 松波めぐみさん	【ビジネスと人権】 菅原絵美さん
9	9月21日(木)		オンライン	【在日コリアンの歴史】 文 公輝さん	【ジェンダーの視点からみる人権問題】 申 恵丰さん
10	9月26日(火)		FW②	【社会的排除・生活困窮者問題】 奥田知志さん	【フィールドワークⅡ】 (生野コース)在日コリアンの歴史と人権 (西成コース)野宿労働者の人権
11	10月3日(火)		対面	【被差別当事者から学ぶ】 【部落問題】 澤井未穂さん 【障害者問題】 玉木幸則さん 【ハンセン病問題】 黄 光男さん	
12	10月10日(火)		オンライン	【自死(遺族)問題】 齋藤智恵子さん	【LGBTQをとりまく人権問題と 働きやすい職場について】 神谷悠一さん
13	10月18日(水)		オンライン	【日本社会と外国人労働者】 望月優大さん	【ハンセン病問題】 黒坂愛衣さん
14	10月24日(火)		FW③	【フィールドワークⅢ Aコース(高槻市富田地区) Bコース(大阪市住吉地区)	人権のまちづくり
15	11月2日(木)		オンライン	【日本のHIV・AIDS問題の今】 花井十伍さん	【見た目の差別~「見た目問題」とルッキズム】 外川浩子さん
16	11月9日(木)		オンライン	【水俣病問題の歴史と現在】 田尻雅美さん	【アイヌ】 関根摩耶さん
17	11月17日(金)		対面	【これからの人権教育・啓発】 森 美さん	【職場のハラスメントと人権相談のあり方】 桑野里美さん
18	11月21日(火)	11月22日(水)	対面 班活動	【自己啓発学習-①】	
19	11月28日(火)	11月29日(水)	対面 班活動	【自己啓発学習-②】	
20	12月4日(月)	12月5日(火)	対面 班活動	【自己啓発学習-③】	
21	12月12日(火)	12月13日(水)	対面 班活動	【自己啓発学習-④】	
22	1月11日(木)		オンライン	【沖縄の問題を国際人権法の観点から考える】 阿部 藤さん	【差別禁止法と人権】 谷川雅彦さん
23	1月17日(水)		オンライン	【合理的配慮と創造的思考— 平等を実現するための方法】 飯野由里子さん	【人権研修の基礎基本】 堀井 悟さん
24	1月25日(木)		対面	【修了ワークショップⅠ】	【修了ワークショップⅡ】 【総括講演】丸山 明宏さん

フィールドワーク、対面学習、班学習

※一日の講座終了後、16:30~17:00にはグループでの講座のふりかえりを行った。

2年に一度の解放大学同窓会の総会・記念講演会を開催

部落解放・人権大学講座の全体の同窓会の総会（第6回）と記念講演が、2023年10月21日（土）にHRCビル5階ホールで開催されました。前回（2021年）はオンラインでの開催でしたが、今回は2019年以来、4年ぶりに対面形式が復活しました。総会には33名のご参加をいただきました。

はじめに、同窓会の会長、堀井悟さんの挨拶に続いて、来賓として、研究所の棚田洋平業務執行理事兼事務局長、大阪同和・人権問題企業連絡会の大山健吾常務理事からご挨拶いただきました。

その後、この2年間の同窓会に関する報告を解放大学事務局の小西愛里紗研究所職員から、また、今後の活動案について同研究所の川口泰司業務執行理事（啓発事業担当）から提案がありました。

報告では、

- ①第5回（2021年度）総会以降の取り組みは、新型コロナウイルス感染拡大により、修了生研修会がほとんど実施されなかったこと
- ②修了生の取り組みもコロナ禍の影響で実施事例が少なく報告が減少したこと、併せて、研究所が実施する講座・学習会などの情報を配信する「同窓会メール」も同様だったこと
- ③修了生の取り組みが少ない中、2021～22年度も修了生通信「あしはら」を発行し、現在の解放大学講座の実施報告などを紹介し、研究所ホームページにアップしてきたこと
- ④総会と記念講演について、例年は同研究所の総会に相乗りする形で平日に実施してきたが、今年度は個人でも参加しやすいよう土曜日に開催したこと

などが資料で説明され、参加者に共有されました。

今後の活動案については、

- ①各期の修了生の研修会や交流会の取り組みの実施を検討いただくこと
- ②修了生の取り組みや開講中の解放大学の様子、研究所の開催イベントなどを「同窓会メール」で紹介すること
- ③修了生の取り組みやその年度の解放大学の様子を伝える修了生通信「あしはら」（PDF版）を毎年度末に発行し、研究所のホームページに掲載すること
- ④次回の総会・記念講演を2025年度に開催し、多くの修了生が参加できるような内容、開催方法等を検討すること

が提案されました。

会長・副会長が交代

2019年から会長を務めた堀井悟さん（23期・107期）、副会長を務めた部谷佳昭さん（78期）が今回の総会で退任され、新会長に鷹家誠治さん（99期）、副会長に山崎紳司さん（64期・109期）が就任されました。

また、解放大学の助言者をご勇退された安藤正彦さん、井上泰子さん、山本良清さんには、講座を支えていただいたことへの謝意が川口理事から述べられ、記念品が贈呈されました。

さいごに、部落解放・人権研究所では、2024年に開講50周年をむかえる解放大学の記念誌を発行する予定であることが報告され、総会を終えました。（講座事務局 倉澤）



新旧会長・副会長を代表して部谷さんが挨拶

「婦人水平社100周年」 大賀喜子さんによる記念講演

解放大学同窓会の総会終了後、記念講演会として、「あわじ寺子屋」副理事長の大賀喜子さんに「『ごめん、聞いてごめんな・・・みやらけの人々の聞き取り』を制作するにあたって」と題して、書籍刊行までの経緯や思いをお話いただきました。事務局より報告します。

*** **

2023年は全国婦人水平社100周年

全国水平社が創立された翌年には婦人水平社が創立された。2023年は婦人水平社100周年ということで、今回のお話をしていただいた。



過酷な人生を語ってくれた女性たち

「みやらけ」と呼ばれた日之出の部落と戦後の部落解放運動の歴史について紹介していただいたのち、著書でも記されている3人の女性のことをお話しいただいた。

聞き取りをする中で、日之出の女性たちから聞いた。日之出は被差別部落の中でも部落産業のない一番貧しい所。いま生きてる中でも50人くらいの女性は「身売り」をしていたと。

そんな過酷な人生と胸の内を話してくれた女性たち。大賀さんご自身が原則としていたことは、たとえ話し手本人が書いてもいいと言ったとしても、絶対に自分は書かないということ。本人が自分で字を学び、自分の字で、自分の言葉で書いてほしいという思いを貫いている。だから女性たちに識字学級に行くことを薦めた。

どうしても記録に残したい

本書の作成は新型コロナウイルス感染拡大にともない、学校が一斉休校になって、頑張って開いていた「あわじ寺子屋」も周囲からの反対で仕方なくお休みすることになったことがきっかけだった。聞き取りをした女性のことはどうしても記録として残したいと思っていたから、その時、「本を出そう」と決めた。出来上がったのがたまたま全国水平社創立100周年の年だったため、有難いことに広く宣伝してもらえて、いろんな人に読んでもらった。

日之出部落は現在、国指定の再開発地域になっていて、「ひょっとしたら消えてしまう」地域である。だから、記録だけはきちんと残しておかないといけないと思い、作成するに至った。地域限定の書籍だと国会図書館に寄贈できないが、出版社が刊行したものであれば寄贈できる。自分たちが亡くなった後にも、日之出にルーツをもつ人たちや研究者などにも気づいていただいて、論文等に活用いただけるかと思うと、講演を締めくくられた。

大賀さんの日之出部落の人々への丁寧な関わり、そしてこんな思いをもって聞き取られた記録（本書）を、ぜひ多くの方に読んでいただきたいと思う。

「部落がなくなったから終わり」にはしてはいけない。

この記念講演を聞いて、歴史やその時代を生きた人々の言葉を残すことの大切さを知った。
(講座事務局 小西)

※参照

『ごめん、聞いてごめんな・・・みやらけの人々の聞き取り』大賀喜子著(2022年1月 解放出版社)
<https://www.kaihou-s.com/book/b600372.html>

『おはなし おかわり(大阪の被差別部落の民話)』被差別部落の昔話制作実行委員会 編著
岡島礼子 絵(2016年11月 解放出版社)
<https://www.kaihou-s.com/book/b576174.html>

解大同窓会の会長、副会長に就任して

2014年の開講40周年を機に発足した解放大学全体の同窓会。今年度は二年に一度の総会の年であり、2024年は開講50年を迎える年でもあります。今回の総会で新しい会長、副会長にそれぞれ就任された鷹家誠治さん、山崎紳司さんのお二人に今の思いを語っていただきました。



たかいえ せいじ
鷹家 誠治

解放大学99期修了生。現在、解放大学助言者を務める。



やまさき しんじ
山崎 紳司

解放大学64期および109期修了生。現在、解放大学助言者を務める。

私は、2010年に所属企業の人事異動で人権担当となり、会社の方針で部落解放・人権大学講座（99期）を受講いたしました。

99期は、メイン会場が芦原橋（あしはらばし）の人権センターから弁天町のAIAIおおさか（HRCビル）に変更された最初の期でした。

講座は、6月から12月まで計29回のプログラムで、毎回、企業、行政や教育関係等の方々とともに、さまざまな人権問題について、至高の環境で学んだ7か月間でした。

その翌年には、所属企業が大阪同和・人権問題企業連絡会（同企連）に入会し、私は同企連担当者となり、2020年2月退職までの9年間、さまざまな人権問題について学習させていただきました。

現在は、解放大学、大阪同企連での学びを活かし、大阪府内の市役所で人権啓発担当者として働いています。

昨年、解大同窓会の新会長就任のお話を頂いたときは、自分のような者が引き受けてよいものかと迷いましたが、公私ともにお世話になった解放大学に、少しでも恩返しできたらとの思いで引き受けさせていただきました。

今年（2024年）は、解大開講50年という大きな節目の年にあたります。みなさまのご協力をいただきながら、何か形に残すことができればと思っています。

私は1999年度に、当時勤めていた自治体から、解放大学64期を受講しました。当時をふりかえると、頭でっかちだった自分にとって大きなプラスでしたが逆に苦しい事もありました。というのは、深い学びをただけに、その後に「自分が頑張らねば」と焦ってしまい職場で空回りするようなしんどい時期が来たからです。学びをどう活かすかは個人に委ねられており、修了後もそれを支える「仕組み」があればと思い、微力ながらそんな一助となればと今回役員をお引き受けしました。

解大修了生に対しては64期修了当時、「人材バンク」をつくるという動きがあったように記憶しています。解大修了後に人権に関わって現場で活躍する機会をつくり、社会に貢献していこうという趣旨だったように思います。

その後、時代は巡り、私は2015年度の109期で2度目の解放大学の受講をすることになりました。前年の2014年には解大開講40周年ということで、この同窓会が発足しました。200人程が集う設立総会が行われていたようで、企業、行政、教育、運動という4つの分野からの講演では、「これから求められる人権人材」という切り口で、提起がありました。私はそこから10年経ってどうなのかということに興味があります。40周年と50周年をつないで、みんな考えてみてはどうでしょうか。

修了生のご活躍

第26期「部落解放大学講座」を修了された芦田武雄さんは受講当時、大和ハウス工業(株)のご担当として社内や大阪同企連での人権の取り組みに関わり、退職後も大阪企業人権協議会や地域の人権研修の講師などを務めるなど、今も活躍されています。解放大学の助言者や事務局のサポートも担っていただき、解放大学を支えていただきました芦田さんに、近況についてご寄稿いただきました。

*** **

皆様お元気ですか。私は第26期修了生です。当時解大は約2カ月間で28日にわたる短期集中型の講座スケジュールで、「人権づけ」の日々を過ごしたこと今でも鮮明に記憶しています。解大を修了し社内の人権啓発活動及び大阪同企連の担当者として活動をしてまいりました。

会社を退職して現在は地元の市役所で地域の人権啓発活動のお手伝いをしています。業務の主な内容は講師活動ですが、企業向けの内容とは少し違って、いじめ、ヤングケアラー、認知症、高齢者、引きこもり問題等幅広く、また研修対象者も、地域町内会、学校、企業、高齢者大学の皆さんなど、広く交流しながら様々な形でともに学習しています。

そのほか、地域の公民館で毎月、人権相談業務を担当しています。研修で話す内容は、これまで「人権啓発担当者として学んだこと」をテーマに、自分自身が体験・経験したことをベースにお話ししています。

当然のことですが、私がこの活動する源はすべて解放大学との出会いと学びによるものです。そして、伝えるメッセージは、人権を知ること、学ぶことは、価値ある素晴らしい、楽しいことなんだよ、ということです。なぜなら今

私自身ふりかえってみると、長い人権の取り組みを通じて数多くの人達、おそらく数百人以上の方とお付き合いをしてきました。そして、その人たちとよく議論し、話をしてきましたが、人権を学んで損をした、マイナスになったという人に幸いにもいまだ会ったことがありません。すべての人といえ言いつぎかもしれません、人権を学んで良かったとみんな言います。

それはなぜだろうと考えてみると、きっとこうなんだろうなと思います。交流分析のエリック・バーンの有名な言葉に、「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉があります。つまり、人権を学ぶとは、私たちひとり一人が「自分自身の生き方を見つめ直す」ことに大きくつながっているからだと思います。自分らしく、その人らしく、成長した大人の心、知的な感受性をもって、心豊かに生きるヒントを、人権の学びからたくさん得られ、又気づかされるからだろうと思っています。

私自身、今後ともこれらの素晴らしい体験を伝えていければと思っています。

最後に、皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



2011年6月、解放大学101期の講座で講師を務める芦田さん

新しい仲間～解放大学118期（2022年度修了）

「水平社100年の解放大学」

私たちは、2022年7月1日に開講、翌年の1月25日の修了までの全24回のプログラムを修了した解放大学118期の仲間です。受講生61人が無事プログラムを修了しました。

2022年は全国水平社創立100年の年で、関連するイベントも多く行われた年でした。118期解放大学でも「私の水平社宣言」の執筆に取り組みました。

2020年度、21年度の2年間は、コロナ禍の中、解放大学もほとんどオンラインでの実施となっていましたが、私たち2022年度118期プログラムは24日中、11日間を対面で行うことになり、「私の水平社宣言」の取り組みも弁天町のアイアイおおさか（HRCビル）で班単位の話し合いを中心に、各班お二人の助言者のサポートを得ながら行われました。

オンラインでは、職場や自宅で受講しましたが、受講生によってはオンラインが一部あることで解放大学を受講できたという方もいました。また、やむを得ず受講日に欠席した場合も、事後に録画を視聴することもできるなど、オンラインのメリットもありました。

修了後の取り組みを復活させたい

118期では、コロナ禍でほとんどできなくなっていた修了生の交流の取り組みをぜひ行いたいと考え、「修了の日」に予告をしていました。また、夏頃には研修会の打合せを兼ねて、弁天町で修了生幹事の交流会を行うなどして、修了から約10ヵ月後となる2023年11月18日（土）に修了生研修会を松原市で行い、修了生23人と助言者・事務局3人が参加しました。

修了生幹事の一人が地元の自治体の職員であることから、松原市立人権交流センター（愛称：はーとビュー）の職員の方に部落問題を学ぶフィールドワークの案内と講話をしていただくことを依頼し、実現しました。

お世話になったのは、地元の小学校の教員で現在は松原市教育委員会から「はーとビュー」に出向し、子どもの放課後の活動などの事業を担当されている花谷さんで、この日は無償ボランティアとして休暇をとってまで私たちのためにご自身初という地域の案内をしてくれました。講話では、花谷さん自身も地元の小学校に通っていた時代に同和教育の実践の中で育ち、自分もそんな実践をしたいと教員をめざしたことなど、ご自身の生活史も含めて語っていただきました。



研修終了後は天王寺で懇親会も行い、花谷さんにもご一緒いただき、研修をふりかえるとともに、解大受講時代の思い出や近況なども語り合い、交流しました。

研修会参加者にはふりかえりの感想も任意で書いてもらいましたが、花谷さんのおかげで充実した学びの機会となりました。これからもつながりを大切に、交流を続けていきたいと思えます。（118期修了生幹事代表 川本）



交流だより・修了生からのメッセージ

コロナ禍を乗り越えたというわけではありませんが、2023年度は解放大学修了生の取り組みも徐々に復活してきています。期単位の取り組みは難しくなっているかと思いますが、班単位や班コラボなどの取り組みでもよいので、つながりを大事に、交流をつづけてもらいたいと願っています。今回はそんな思いで修了生からの交流だより、メッセージをいただきました。

*** **

☑ 2012年（平成24年）5月に異業種メンバー34名でスタートした解大の学びの場。毎週火曜日に弁天町までに通った6か月間でしたが、12年たった今でも鮮明に覚えています。

時には助言者からの厳しいアドバイスや、講義後、同期と居酒屋で時間を忘れ激論を交わしたこともありました。今はそんなメンバーと年一回の同期会開催が一番の楽しみになっています。

昨年は11月18日に13名が参加して実施。各人の近況報告や解大時代の思い出話に花が咲きました。皆さんも貴重な「学びの場」を大切に、仲間の絆と輪を広げていってください。（103期修了生幹事会代表 我妻）



ここ数年間は、第1部は京都散策と昼食会、第2部（夜）は大阪市内で懇親会を実施

☑ 109期の皆さん、元気ですかー！

「元気があれば 何でもできる」でお馴染みだったアントニオ猪木さん。その猪木さんが亡くなってほぼ1年半。当時はコロナ禍でプロレス観戦もままならない時期でした。その後、昨年5月8日から「新型コロナウイルス感染症」の位置づけが「5類感染症」に移行し、外出の自粛要請および就業制限もなくなりました。最近では、私の心に灯る「燃える闘魂」を絶やさないように勤務先近くのエディオンアリーナ大阪（大阪府立体育会館）で新日本プロレスの興行がある時は時折 猪木イズムの継承の観戦に1人で出かけてます。コロナ禍で途切れていた109期修了生研修もきっと間もなく再開されるのではないだろうか。そんな期待をしています。

そんな中、昨年4月から109期の同期である株式会社きんでんの丸山さんが大阪同企連の理事長に就任されました。想像を絶する重責に心労いかばかりかと同企連担当者としては見守りながらも、何かできることはないだろうか・・・。解大修了生としては、やはり意見交換会（飲むこと）でしょう！と思い至り、大阪勤務かつ109期修了の大阪同企連担当者と、解大時代にお世話になった川本さんを加えた4人で丸山さんを囲み不定期に飲んでいました。企業、所属グループ、年齢など違ってそこは解大の同期。難しい議論や討論、ましてや画策などは全くなく、たわいもない日常のできごとを酒の肴に楽しいひと時を過ごしております。もしかすると、「楽しいひと時」は私一人の勝手な思い込みでは？そんな繊細な悩みなどすることもなく、お酒が楽しく飲める程度の体調管理だけを気にして、また桜が咲くころには声がけしてみようと考えています。

「元気があれば、お酒も美味しい！」109期の皆さんともお会いできる機会を楽しみにしております。（109期 森田）

㊦ 解大を無事？に卒業してから早8年。110期C班の「現在地」について、僭越ながら班を代表して報告させていただきます。

毎週夕方、授業が終われば自然と弁天町の駅前居酒屋に集い、杯を交わしながら意見交換・歓談することが染みついてしまったC班は、新型コロナの影響が大きかった期間を除き、毎年、夏場と冬場の年2回（冬場は福島でおでん！）懇親会の開催を続けています。

毎回、助言者（横山芳子先生、岡本茂先生）にも御臨席いただき、集まった有志の半年間の近況や、最近のニュース・人権問題、仲間の距離が一気に縮まった不死王閣での宿泊研修の思い出等々を肴に、美味しい食事を楽しみながら、和気藹々と賑やかな時間を過ごしています。

集まれば、そこは解大卒業生。話題も豊富で、学びや気づきがたくさんあります。

これからも皆が健康で末永くこの集いを続けられますように。今年の夏はどこで集まろうかな。（110期C班 田中）

㊦ なにごとであっても、一度中断したことを再開するには力がある。111期生同窓会も2019年度の開催を最後に4年の間隔が開いてしまった。新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが変わったこともあり「そろそろ再開か？」と思っている間にどんどん月日がたち秋になってしまった。

そんなときに川本さんから「解大全体の同窓会の後に幾つかの期で合同懇親会をしませんか？」という提案があった。これ幸いとばかりに飛びついたのは言うまでもない。

さっそく各班の幹事を通じて案内を回してもらい、懇親会に111期から7人集まることができた。参加率は1割程度であったが、中には神奈川県からわざわざ来てくださった方もあり（Tさんありがとう）久しぶりに旧交を温めることができた。期全体でも、班の集まりでも、つながりを絶やさず、つながり続けることの大切さを改めて感じた集まりでした。

（111期修了生幹事代表 赤井）

㊦ 解放大学第119期のみなさま、修了おめでとうございます！ 第113期、代表幹事の市原と申します。第119期の開講式では挨拶をさせていただきますして、この度の修了に至りましては自分事のように嬉しく感じています。

さて、第113期では交流会を昨年6月に企画していたのですが企画した本人の私がコロナを患ってしまい延期になりました。（泣）企画内容は、名付けて「鑑識レコード倶楽部（仮称）」です。音楽鑑賞会と思っていただいて良いのですが、少しひねっています。

それは、

- ・人権という切り口で特徴のある楽曲のレコードを選び、みんなで聴く。
- ・その楽曲のコンセプト、エピソードなどを選出者から披露してもらう。
- ・参加者で感想、関連エピソードなどを話し合う。

といった進行です。ちなみに企画名の「鑑識レコード倶楽部」は、マグナス・ミルズ著の同タイトルの書籍の内容が面白かったため拝借しています。そして、延期になっていた交流会は、めげずに仕切り直して、以下の予定で進めています。

1. 「鑑識レコード倶楽部(仮称)」
日時：2024年4月6日(土) 14：30～
場所：豊川いのち・愛・ゆめセンター
2. 「懇親会」
日時：2024年4月6日(土) 17：30～
場所：茨木駅付近の居酒屋
参加費：財布が痛まない程度の割り勘とします。今度は開催できるように気をつけ？ます。そして無事開催できましたら、ご報告いたします。

第119期のみなさまの今後の益々のご発展を祈念いたします。

（113期修了生幹事代表 市原）

㊦ 解大修了式から早くも5年の月日が流れました。あれから114期B班9人は、現役であったり、リタイヤされ第二の人生を謳歌していたりと、様々な人生を歩まれています。

コロナ禍や、部署異動、大阪以外に転居されるなど、なかなか集まれません、LINEでのやり取りは継続していますので、メンバーの近況を、お伝えします。

○神田さん（現役）バス釣りと環境活動に勤しむ毎日です。

○久田さん（2024年1月末退職）ゴルフのお供にchocoZAPを頑張っています。

○木下さん（囑託）不動産業を営みながら、ドラマーとしてライブ活動しています。

○森内さん（現役）定年延長、働ける間は頑張ります。

○山岡さん（現役）部署異動しながら、日本の未来を心配しながらも頑張っています。

○西村さん（定年退職）在所に戻り、月80時間のバイトを頑張っています。

○林（現役）社内研修対応などで、啓発活動に慌ただしく活動中。

（114期B班 林）



2023年4月17日、
西村さん退職時のお疲れさん会にて

☛ 解放大学119期の皆さま、修了おめでとうございます。

解放大学116期の修了から3年が経ちました。早いなー、と思います。116期はコロナウイルス蔓延の影響で全講座がリモートとなりましたが、私たちC班は卒業後、定期的に集まり懇親を深めています。昨年も梅田の居酒屋で懇親会を企画し、お世話になった事務局の方、助言者の方にも参加いただき、当時の班討議・リモート懇親会の思い出話で盛り上がりました。解放大学で真剣に討議した班のメンバーと集まるのはとても楽しく充実しています。このようなメンバーと出会えたことに感謝し、これからも楽しく語り合っていきたいと思っています。（116期C班 松村）



2024年3月15日にも116期C班交流会を実施

☛ 2020年8月コロナ禍まっただ中でスタートした116期は全講座がオンライン開催となり、結局一度も対面で集まることもなく、2021年3月に修了しました。それでも、我々グループゼミF班は、有志でZoom飲み会を開催し、「集まれるようになったら、ぜひリアルで」と話していました。

それから飛ぶように2年の月日が流れてしまいましたが、事務局をされていた川本さんから強いお声かけをいただき、ようやく2023年9月末、あべのキューズモールの韓国料理店にて、助言者お二人も交えて8人で同窓会を開催しました。

「初めてリアルでお目にかかりますね」の挨拶から始まり、卒業後2年間の近況報告から解大当時の思い出など、盛り沢山の話にあつという間に時間が過ぎ、次回を楽しみにしつつ解散と相成りました。行政や企業など、立場は違えど人権に携わる仕事に就いている者同士、この貴重なご縁を大事にして、これからも交流を続けていければと思います。

（116期F班 富田）

☛ 117期を修了し、早いもので2年が経ちました。117期唯一の会場集合組だったA班ですが、修了後も助言者の先生、事務局の方にも声をかけ、定期的に同窓会を開催しています。

2023年度は春に班メンバー企業のレストランで行い、年末には難波で開催しました。

（間に何度か阪急沿線組で非公式会をしていますが…、）近況、当時の話題に花を咲かせています。

今年度は、117期の他班との交流もあり、秋にG班企業出場の社会人野球観戦に呼んでいただき、京セラドームで久々のスポーツの熱気に圧倒されました。



京セラドームにて

また、2月10日（土）には、当時事務局の方の声掛けで、助言者の先生を含めた117期B班と合同で、水野阿修羅さん（阿修羅は俗称で、西成に来てから周りの方につけられたとか…）の案内で、西成のFWを行い、歴史と現在、主要地点の説明を受けました。FW後は、新世界で食事を堪能しました。解大受講時はオンライン講義がメインだったため、他班との交流は新鮮でした。

約8か月間の短い期間でしたが、同じ時間、人権研修を受けた仲間との交流をこれからも大切にしたいと思っています。

「みんな、集（つど）おうぜ！」
※大谷翔平の“野球しようぜ！”を真似て、…

（117期A班 友上）

☑ 解放大学117期はフルリモートでの約8ヶ月間でした。その影響もあつてか修了後の同窓会（もちろんリアル開催）については、助言者さまや当時の事務局（川本さん）にも出席いただき年間2回のペースで現在まで4回実施しています。

解放大学でさまざまなことを学んだことでメンバーの人権意識も向上し、同窓会についても年間1回は学びの場としています。

2月10日（土）には、117期A班のメンバーとともに、釜ヶ崎地域史研究家の水野阿修羅さんを講師にお招きし、釜ヶ崎FWを実施しました。

釜ヶ崎の中心部を練り歩き、大きく変容していく過程の釜ヶ崎を感じる事が出来ました。水野さんには懇親会にもご一緒していただき、ここには書けないようなお話しも沢山お聞きすることができ大変有意義な同窓会となりました。

今後も解放大学で出会えた“縁”を大切に交流を深めていきたいです。

（117期B班 磯貝）



以上、修了生の皆さん、メッセージ有り難うございました。

今後も皆さんからの多くの交流により、メッセージをお寄せいただけるよう、交流が盛んになることを期待しています。

同窓会のメール登録を

解放大学や部落解放・人権研究所に関するイベント情報など、「同窓会メール」を配信しています。今後の連絡のためにも、ぜひ登録ください。

解放大学修了生の交流の取り組みやご活躍など、お知らせいただければうれしいです。

メール登録・変更については、お名前、メールアドレス、できれば修了期を下記の事務局アドレス宛にお知らせください。

kaidai40@blhrri.org

〒552-0001

大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8階

（一社）部落解放・人権研究所

解放大学事務局